

## 子育てなんでも相談室

Q 小学校2年と年中クラスの女の子がいます。毎日、かつかつの生活で金銭的に余裕がなく、夏休みもどこへも連れて行ってできません。子供たちにも申し訳なく、あちこち家族旅行に出掛ける家庭をうらやましく思います。

A ある講演会で、参加されていた若いお父さん、お母さん方にアンケートを取ってみました。「子供時代に親が与えてくれた楽しかった思い出を書いてください」

出てきた答えはこうでした。「公園や遊園地に行くたび、お父さんが肩車をしてくれたこと」「保育園の帰り道、夕日を見ながらお母さんと手をつないでスーパーに行ったこと」「おやじの配達の車の助手席に乗ってもらい、お菓子やジュースをもらったこと」「枕元で母が毎日、本を読んでもらったこと」

日常の、当の親も忘れていたような些細な出来事ばかりが続き、楽しかったはずの家族旅行やプレゼントをもらったこ

どこへも連れて行ってやれない

となどを書いた人はほとんどいませんでした。

「子供時代の親との楽しい思い出」として残るのは、親がお金をかけて作ったものではなく、愛情さえあればどんな親でもできる、ごく何げない関わりの中にあるようです。

仮に、今からご家族で旅行に出掛けても、お子さんは5年もたてば忘れるかもしれません（うちの子がそうでした）。

でも、手をつないで歌でも歌いながらスーパーに行く▷その道中に尻取り、なぞなぞをする▷一緒に流れる雲を見る▷買ったものを親子で楽しく袋に詰める—など、それこそお金も時間も手間もかからないエピソードをたくさんつくっていくと、その楽しい時間はたとえ瞬間であっても、5年どころか50年覚えているかもしれません。

子供にとって大切なのは、どこに行ったかや何をしたかではなく、そこに笑顔があったかどうかです。この夏休みは、親子で笑顔になれる小さなエピソードをたくさんつくってみてください。お子さんもきっと満足してくれますよ。

(こどもコンサルタント 原坂一郎)